

2024年2月11日（日）主日朝礼拝説教

『謙遜とは』井上隆晶牧師  
イザヤ 65 章 1～5 節、ルカ福音書 18 章 9～17 節

### ①【罪人のわたしを憐れんでください】

ファリサイ人と徴税人の二人が祈るため神殿に上りました。ファリサイ人とは神の戒めを守ることに厳格な人たちです。徴税人は税金を集める人であり、なかなか神様の戒めを守れない人です。皆から嫌われ、罪人というレッテルを貼られていました。ファリサイ人は立って心の中でこう祈りました。「神様、私はほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でもなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。私は週に二度断食し、全収入の十分の一を献げています。」(11～12 節) 一方徴税人は遠くに立って、目を天に上げようとせず、胸を打ちながら言いました。「神様、罪人の私を憐れんでください。」(13 節) この祈りが最も短い教会の祈り「主よ、憐れみ下さい (キリエ、エレイソン)」になりました。この二人の内、神様に受け入れられたのは徴税人の方でした。

### ②【義とは神との関係の言葉であること】

「義とされて家に帰った」(14 節) とありますが、「義とされる」という言葉は日本人にはあまり聞きなれない言葉です。「義」とは「正しい」という意味ですから、正しい者とされたという意味になります。しかしパウロは「正しい者はいない。一人もない。」(ローマ 3 : 10) と言っていますから矛盾してしまいます。「義」というのは「関係の言葉」だと思って下さい。人間の存在自体は生涯、正しい者になれませんが、神様との関係は正しくなれるのです。なぜなら徴税人は、謙虚になり神様を必要としたからです。そういう人は神様と正しい関係になるのです。

### ③【高慢とは自分のしたことを誇り、罪人とは違うと思う事】

ファリサイ人は良い行いをしていたのですが、神様に受け入れられず、せつかくの善行が無駄になってしまいました。それは心が高慢になったからです。もう一度、彼の祈りを直訳して読んでみましょう。「神様、私はほかの人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でもなく、また、この徴税人のような者でもないことを私は感謝します。私は週に二度断食し、私が得たすべてのもの十分の一を献げています。」(11～12 節) 英語では4回も「私」という言葉が出てきます。彼の祈りは「自分」で満ちています。彼はすべては神様がしたのではなく、自分がしたと思っています。そして自分がしたことを数え上げて自慢しています。また彼は「神様、私は他の人たちのように、奪い取る者、不正な者、姦通を犯す者でもなく、また、この徴税人のような者でもないことを感謝します。」(11 節) と祈りました。「…のような者ではない」という表現に注意して下さい。「私はこの人たちとは違う、私の方が上だ」と言っているのです。

●柳生直行さんは本の中で「エゴイズムまたの名を傲慢さは何よりもまず、自分と他者との間に差をつけるという形で現われます」と書いています。人間は違いがあると思っていますが、聖書に出て来る神様は善人の上にも悪人の上にも太陽を昇らせ、9時から働いた者にも、夕方の5時に来た者にも同じ賃金を与えます。神様の目には善人も悪人も違いがないと映っています。

私たちはただ守られているだけで、罪を犯す人と何ら変わらないのです。もし不幸な境遇に生まれたり、同じように犯罪を犯していたでしょう。善いことをしたとしても、それは神様がその力とチャンスを下さったからだけなのです。私たちはみな同じなのです。

#### ④【謙遜とは】

謙遜とは神のことであり、イエス・キリストのことです。イエス様自身「私は、柔和で謙遜な者だから、私の軛を負い、私に学びなさい。」(マタイ 11:29)と言われたからです。謙遜になりたければ、キリストの言葉と行いをいつも見て、学ばなければなりません。そして真似るのです。

●シモノス・ペトラス修道院のディオニシオスはこう書いています。「謙虚さを願うことは、無と評価されることを願うことです。…あなたが神に近づくほど、ますますあなたは自分の無を認めるでしょう。…謙虚な人は聖霊の住まいです。彼の中には愛は支配しています。こういう人は寛容で、仕える人です。物を欲しがらず、ねたみません。自慢せず、無礼なことは何一つしません。…あなたの兄弟を自分よりあらゆる点で優れた、知恵ある人だと思いなさい。イエスの様に、すべての人の足もとに身を置きなさい。それから、あらゆる善いわざ、あなたの中で真実なもの、善なるもの、清いものをすべて神に帰しなさい。実際、あなたが受けなかったものが何かありますか。神なしに私たちは何も出来ないのです。」

同居していた義理の母が7日(水)に永眠されました。1年1か月の同居生活でしたが振り返って「何も親孝行らしいことが出来なかったなあ」と思います。車イスを押して散歩すること一つできませんでした。反対に義母にしてもらったことがたくさん思い出されるのです。先日のYWCAの聖書を学ぶ会でも、夫を亡くされたNさんが「夫の大きな愛が見えて来た。それに比べ自分の愛は足りなかった」とおっしゃっていました。人が謙虚になり、自分が小さくなるには多くの失敗と犠牲が必要なのだと思います。

神の大きな愛と忍耐、自分の周りの人の愛がいかに大きいかを知った人は、自分がどんどん小さくなり、からし種のように見えるでしょう。そしてキリストが大木に見えるのです。自分の中で自分が大きくなっている人は、自分を語りますが、キリストが大きくなっている人は、キリストを語ります。人は自分の中にあるものが外に現れるからです。それが謙虚さを測るしるしです。どうか自分が小さくなり、神の愛、人の愛が大きく見える謙虚な人になれますように、祈りたいと思います。